

作物のトラブルを 根本から解決！

野菜・花・植物の土壌消毒に。
土壌病害・土壌害虫・線虫・二年生雑草をしっかりと防除します。

土壌消毒剤

クロルピクリン液剤

クロルピクリンとは

作物の圃場の土壌を消毒する薬剤です。
野菜、花卉、畑作物の土壌害虫の駆除剤
として幅広く利用されています。



※クロルピクリンをご使用の際は、ご購入先、または当社ホームページ等で最新の登録内容をご確認ください。

クロルピクリンの安全使用について

- クロルピクリンは、野菜、たばこ栽培等の連作障害防止に不可欠な土壌くん蒸剤で刺激性があります。使用にあたって作業員への安全の確保および周辺への配慮が必要です。
- ご使用に際しては、ラベルをよく読み、注意事項に従って作業を行ってください。
- 初めて使用される場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●人家、畜舎、鶏舎周辺での使用に当たっては、ガスによる危害の発生防止に十分配慮してください。 ●保管するときは、鍵のかかる冷暗所に保管してください。

お問い合わせ先

南海化学株式会社

東京支店：〒110-0015 東京都台東区東上野2丁目18番10号 上野ビル9階 TEL:03-5817-5851
土佐オフィス：〒781-8010 高知市棧橋通4丁目10番1号 TEL:088-831-6191

クロルピクリン剤の安全使用上の注意

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。

使用前の注意

- 作業に際しては、吸収缶(活性炭入り)付き防護マスク、保護眼鏡、不浸透性手袋、ゴム長靴、不浸透性防除衣などを着用し、風向きに注意し、ガスを吸入しないよう、注入のすんだ所が風下になるように、風上に位置して作業をしてください。



とくに薬剤交換時の吸入が多いので気をつけてください。注入機具もあらかじめよく点検、整備してください。



- 住宅地域での使用にあたっては、危被害の発生防止に十分配慮し、とくに住宅に隣接した圃場では使用しないでください。また一時に広範囲の使用はさけてください。



- 幼児など、作業従事者以外の人、家畜などを近づけないように注意してください。

消毒(被覆)

- ①クロルピクリン注入後、直ちに0.03mm以上のポリエチレン、ビニールなどで地表面を被覆してください。クロルピクリンは、すぐにガスとなって土中に広がり、効果を発揮します。ガスが自然に抜けるまで、そのまま放置しておきます。



**被覆をしないと
圃場近くにいる人々、家畜、
作物等に被害が及びます。**



- ②ガスは春・秋で2~3週間あればほとんど抜けます。(地域、気象によりガスの抜ける期間が若干異なります)

2-3週間



消毒後の注意



クロルピクリンで消毒した畑には、他から病原菌などを持込まないようにすることが大切です。

- ①汚染土でついた農機具などはよく洗うなどして、病原菌をつけたまま畑に持込まないようにしてください。

- ②降雨などで病原菌が他から流れ込まないように注意し、また、畑の排水をよくしてください。



- ③苗(種)は、無病で健全なものを移植(播種)してください。



使用済み空缶・空ビンの処理

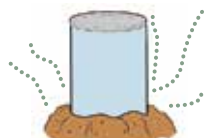
使用済みの空缶・空ビンは次の要領で処理してください。

ほぼ
1カ月で
臭気は
抜けます

- ①周囲に影響を及ぼさない場所に、小さな窪みを作り、缶の口栓をはずし、窪みの中に収まるよう缶をひっくり返し倒立させます。



- ③そのまま、缶を倒立させておくと、中の臭気は徐々に抜けていきます。



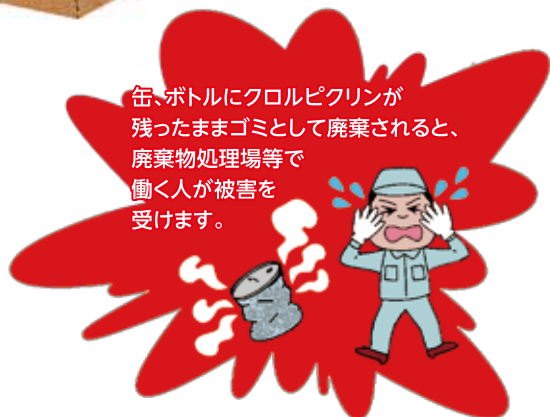
- ②缶が倒れないよう、土寄せをしてください。この時、缶の中の残液が出やすくなるよう、傾かないように立ててください。



- ④1ヶ月後、缶を再度ひっくり返し上向きにし、臭いを確認します。臭いが残っていればそのままさらに静置し、完全に臭いがなくなるのを待ちます。



缶・ボトルにクロルピクリンが残ったままゴミとして廃棄されると、廃棄物処理場等で働く人が被害を受けます。



**空きボトルも
同様に
残液・残臭処理を
してください。**

残液を保管する場合は、他の容器に移しかえたり、水を加えたりしないでください。

